6． 社会貢献

（1）お客様との係わり

■海外事業の拡大

通関

□通関

貿易実務のエキスパートとして輸出入通関のみならず、関係書類の作成、税関検査立会い等、通関に関わる全ての業務を正確かつ迅速に提供します。

保税蔵置場

□保税蔵置場

電子デバイスセンターB 棟の一画において、保税蔵置場の許可を取得し、外国貨物と呼ばれる輸入許可前の貨物や、輸出許可を受けた貨物の保管を行っています。

輸出入に関係する法令に則り、顧客からお預かりした輸出入する貨物を、適切に保管・管理します。

海外ネットワーク

□海外ネットワーク

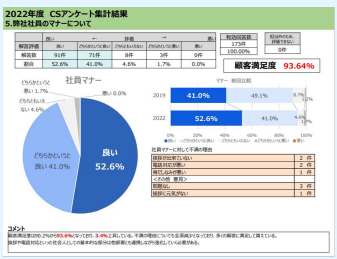
タイの工業団地近郊のチョンブリーに、倉庫業を担う KLT（カリツーロジスティクスタイランド）と輸送業を担う KTT（カリツートランスポートタイランド）があり、倉庫と輸送の複合サービスを提供しています。

□外航貨物海上保険の取扱い

2022 年 10 月より、輸出入関連業務のサービス向上のため、外航貨物海上保険の取扱業務を開始しています。国際間輸送される貨物を対象に、運送中のさまざまな損害を補償することで、お客様へ更なる安心を提供します。

■ＣＳアンケート（お客様満足度）調査結果について

ＣＳアンケート



お客様にはご負担をおかけしますが、2 年に 1 回ＣＳアンケートにて当社の評価をお願いしています。

ＣＳアンケートの結果は、全社で共有するとともに、抽出した重点課題を分析し、お客様満足度向上のための活動を行っています。

（２）社会との係わり

■災害時における対応

□物資集積拠点に関する協定書を締結

当社は西尾市と災害時における物資集積拠点に関する協定書を締結しています。

この協定は、西尾市内において地震その他の災害により被害が発生する場合に、当社の一部の施設を物資集積拠点として使用するものです。

□緊急時における軽油供給対応

全日本トラック協会に対して、震災等の災害発生時、優先的な軽油供給の要請があった場合、速やかに対応することを誓約しています（対象は一部の施設）。

■地域未来牽引企業（※1）

当社は経済産業省より、地域牽引企業の担い手、及び担い手の候補となる地域の中核企業として、地域未来牽引企業に選定されました。これからも事業を通じて、地域経済の発展に貢献していきます。

■交通安全立ち番

各事業所では、交通安全活動の推進に向け独自に、または地域や同業他社と連携して、定期的に交通安全の立ち番や交通安全パトロールを行っています。

■職場体験の受入

職場体験

毎年、電子デバイスセンターなど一部の事業所において、高校生・大学生を対象とした「職場体験」に協力しています。

倉庫内の在庫管理・入庫作業や検品作業などを体験して、物流業への理解を深めて頂きました。職場体験の際は、新型コロナウイルスの感染防止に配慮して、ソーシャルディスタンスの実施、マスクの着用やアルコール消毒などの対策を徹底しました。

■企業訪問の受入れ

職場体験

2022 年 10 月、安城南高等学校の 1 年生（1 クラス）による企業訪問を受入れました。これは高校における総合学習の授業の一環で、地元の企業について学ぶために行われたものです。

企業訪問では、当社の会社概要について説明し、西尾東物流センター倉庫の職場環境を見学しました。また、西尾営業所にて大型トラックの乗車体験を行い、トラックの特性について体感して頂きました。

今後も積極的な受入れを行いたいと考えています。

※1　地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取組むことが期待される企業

■支援活動・寄託等

小学校へベルマーク寄付

□ベルマーク寄付

2013 年よりベルマークの寄付を行っています。
これまで愛知県の他に、事業所を置く広島県東広島市と福岡県宮若市等の 25 の小学校等とベルマーク財団、オイスカへ計 214,000 点を寄付しました。今後もベルマーク寄贈を通して、地域社会貢献活動を行っていきます。

児童養護施設への寄贈

□児童養護施設への寄贈

2022 年 12 月 23 日、安城市の社会福祉法人聖清会児童養護施設「なかよしこよし」と、碧南市の社会福祉法人長寿会児童養護施設「オリーブ」に、ギフトカードとお菓子詰め合わせをクリスマスプレゼントとして寄贈しました。
今回は、刈通オートテクノ殿と日豊高速運輸殿にもご協賛いただきました。新型コロナウイルスが拡大する中、子ども達が元気で明るい笑顔になれるよう、今後も、活動を継続して行っていきます。

子ども食堂への寄付

□子ども食堂への寄付

2022 年より子ども食堂へ寄付を行っています。
子ども食堂とは、子どもや地域の人に、無料または低額で食事を提供する活動です。
新型コロナウイルスの影響で、支援を必要とされている方が増えており、少しでも協力したいと考え寄付を行いました。
今後も、活動を継続して行っていきます。

オイスカへの寄付

□植樹活動や農業支援への寄付

毎年環境保全活動の一環として、公益財団法人オイスカに寄付を行っています。
オイスカは、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する国際 NGO です。
今後も寄付を通して、植林活動や農業支援に協力していきます。

セカンドハーベスト名古屋への寄付

□セカンドハーベスト名古屋への寄付

SDGs の取組みの一環として、「セカンドハーベスト名古屋」へ寄付を行いました。
防災備蓄品非常食の入替えを実施する際に、賞味期限の残った食品（アルファ米・缶詰など）を回収し寄付する活動です。
今後も、活動を継続して行っていきます。

ウクライナ人道支援

□ウクライナ人道支援

2022 年 4 月、戦禍にあるウクライナの方々への救援活動資金の一部として、日本赤十字社愛知県支部へ寄付金目録を贈呈しました。また、2022 年 6 月には、避難を余儀なくされたウクライナ家族を支援する目的で、当社 CLC70 が家財運搬作業の援助協力を行いました。

一日も早くウクライナならびに周辺国の皆様に平穏な日々が戻られることを願っています。

トルコ・シリア地震への寄付

□トルコ・シリア地震への寄付

2023 年 3 月 2 月 6 日にトルコ南部で発生した大地震の救援金として、日本赤十字社愛知県支部へ寄付金目録を贈呈しました。

発災から 2 か月ほどが経過しましたが、現地では未だにガレキの山が残った状況で多くの方が避難生活を強いられています。

被災地の一日も早い復興を願い寄付します。

日本においても、近い将来、南海トラフ地震の発生を警戒する声が上がっており、会社での防災取組みを継続していきます。

□SDGs 取組みの一例

当社は SDGs の取組みに賛同し、様々な活動を行っています。下記はその一例です。

SDGs 取組みの一例

項目
日本赤十字社寄付機能付自動販売機の設置
ホンデリングプロジェクト
ベルマーク/書き損じハガキの回収
エコキャップ寄付
【環境省】Fun To Share "COOL CHOICE" の賛同
節水エコバルブ設置
市原稲荷神社サイネージ付案内表示板への協賛

□協賛・賛助会員・寄付

当社は社会貢献などの事業に賛同し、協賛を行っています。下記はその一例です。

分野	団体名等
教育支援	朝日小学生新聞（朝日写真ニュース社）
社会福祉	特定非営利活動法人安城まちの学校　、ＮＰＯ法人パンドラの会
	更生保護法人愛知県更生保護協会
	特定非営利活動法人アジア車いす交流センター
	公益社団法人被害者サポートセンターあいち
	セカンドハーベスト名古屋
国際交流	公益財団法人オイスカ
人道支援	日本赤十字社　ウクライナ人道危機救援金
芸術	名古屋フィルハーモニー交響楽団、安城市交響楽団
スポーツ	三河ベイフットボールクラブ株式会社、三菱自動車水島ＦＣ
伝統文化	安城七夕まつり協賛会、安城三河万歳後援会

■社外からの表彰等

2022 年度における、社外からの表彰実績等の一部は下記の通りです。

授賞機関名	表彰名	受賞者数
中部運輸局長	優良運転者表彰	1 名
愛知県高速道路交通安全協議会長	優良運転者表彰	1 名
公益社団法人全日本トラック協会	優秀運転者顕章　金十字章	6 名
	優秀運転者顕章　銀十字章	4 名
一般社団法人愛知県トラック協会 刈谷部会	優良運転者表彰　30 年	1 名
	優良運転者表彰　10 年	1 名
	優良運転者表彰　5 年	1 名
一般社団法人愛知県トラック協会 安城部会	優良運行管理者表彰	1 名
	優良運転者表彰　25 年	1 名
	優良運転者表彰　20 年	1 名
	優良運転者表彰　10 年	1 名
	優良運転者表彰　5 年	1 名
中部交通共済協同組合	優良運行管理者表彰	1 名
	優良運転者表彰	1 名
合計		22 名

（３）事業継続計画（ＢＣＰ）等に関する取組み（※1）

事業継続を困難とする地震・台風・水害・感染症等に備え、人命・健康を最優先としたＢＣＰの策定に取組んでいます。

防災対応力の向上を目的として、防災訓練や大規模地震対応ガイドの展開等、様々な取組みを進めています。

■事前対策

□防災マニュアルの制定

南海トラフ巨大地震を想定した、大規模地震対応ガイドを制定しています。

□防災対策用品の整備

災害発生時に備え、各事業所に防災対策用品を確保しています。

定期的に点検を行い、非常時に使用できるよう維持管理をしています。

□倉庫の震災対策

倉庫の震災対策として、製品の転倒・落下防止対策を進めて、安全面の向上に努めています。

具体的な取組みとして、スライド扉・側面ネットの設置、ストッパーや連結パイプの取付け等を実施しています。

□水害対策

豪雨や台風による水害対策の強化のため、全事業所に土のう袋と砂袋を配備しています。

土のう袋の使用方法と手順について資料を展開し、模擬訓練などで事前準備することで有事に備えています。

□防火点検の徹底

漏電などによる防火対策のため、各事業所で日常点検表を活用した日次点検と巡回点検を行っています。

事業所や倉庫等、施設からの火災発生予防に向けた取組みを徹底しています。

□サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ対策の一環として「情報セキュリティ教育」を実施しています。

適切な情報資産の取扱や、コンピュータウイルス感染防止や感染時の対処等を、パソコンを使用する全社員に対し教育しています。

また、定期的にウイルスメール訓練を行い、決められた対応ができるか確認しています。

□情報システムの対策状況

事業活動の継続に情報システムの維持は欠かせません。

当社では、自家発電機、無停電・定電圧装置、本社サーバーを免震プレート上に設置、データセンターを活用したデータバックアップ対策を実施し、震災等に備えています。

今後も最新ＩＴを研究し、オールカリツーで、より一層の BCP 対策のレベルアップを進めて行きます。

※1　企業が自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画

オーバースライダー

□オーバースライダーの導入

停電発生時に設備を稼動できるように、倉庫の出入口にオーバースライダーを導入しました。

オーバースライダーは、天井のレールの上をスライドして収納するため、シャッターよりも開閉速度が速く、静かです。

手動で簡単に開閉できるため、停電時でも使用することができます。

非常用発電機

□非常用発電機の増設

BCP 対策強化の一環として、大型の非常用発電機を増設しました。

予期せぬ事故や災害などの緊急事態に備えた電力を確保することで、事業の継続に努めています。

非常用電源装置

□バッテリーフォークリフト非常用電源装置の導入

複数の事業所に、バッテリー式フォークリフトを使用した非常用電源装置を導入しています。

停電発生時にフォークリフトと機器を接続し、非常用電源として活用できます。

□全社一斉防災訓練

当社では、災害対策組織を編成し毎年定期的に訓練を行うことで、万一の災害に備えています。

2022 年 9 月 22 日、カリツー全社で、地震の発生を想定した一斉防災訓練を実施しました。

訓練では、新型コロナウイルスの感染防止に配慮して社員参加の避難訓練は中止し、緊急地震速報装置のテスト放送訓練、災害時災害対策メール BOX を活用したメール送信訓練、管理者による衛星電話や IP トランシーバーを使用した災害状況報告訓練が行なわれました。

定期的に防災訓練を行なうことで、より良い防災体制を築いていきます。

緊急地震速報装置テスト放送訓練

メール送信訓練

災害状況報告訓練

安否確認システム

□安否確認システムと安否確認訓練の実施

企業の危機管理の一環として、災害時における社員と家族の安否を確認するために「セコム安否確認システム」を運用しています。

災害時、全社員の安否確認を確実に行うため、各四半期末に繰り返し訓練を実施しています。

車両動態管理システム

□車両動態管理システムの運用

「セコム安否確認システム」と合わせ、災害発生時に車両と乗務員の位置情報を即座に管理者が把握できるよう「車両動態管理システム」を運用しています。

COVID-19（新型コロナウイルス）感染対策

2020 年 1 月より世界各地で感染者が拡大している新型コロナウイルスに対し、当社としても、感染拡大の防止及び事業継続（BCP）の観点から、各種感染拡大防止対策を実施しています。

□対策会議の開催

関係部署と経営層を交えた対策会議を発足し、会社の新型コロナウイルス対策に対する方向性と指針及び各種施策を決定し、対応しています。

□予防活動の徹底

感染拡大防止のため、社員に対し、日頃からの予防対応への啓発を行い、全社をあげて予防対策に取組んでいます。

対策として、フォークリフト・トラックにタオルと消毒液を設置、全部署への衝立の設置、3 密を避けるため距離を置いた休憩所、消毒付きの検温器の設置、定期的な換気など、飛沫感染への予防措置を取りました。

また、より精度の高い抗原検査キットを導入し配備しています。

WEB 会議や本社業務の在宅勤務を積極的に実施しました。

発熱モニターを設置

エレベーター内と前に足型シール表示

消毒付きの検温器の設置

（４）社員との係わり

■人材育成

□職員の教育・研修制度

社員の能力向上のため、各種教育・研修を体系的に行っています。

新入社員研修

社内研修

□現業員物流改善研修

現場の第一線監督者（ブロック長対象）を主体とした現業員物流改善研修を実施しています。

現場に於ける安全・品質・生産性の向上のため、物流管理部が核となり改善を継続的に推進できる人材の育成を目的として、１ヶ月に亘り座学と現場実習を実施しています。

座学では TPS（トヨタ生産方式）の考え方を基とした習得、現場実習では実際に活動している「現場からの学び」を題材とし、現場に寄り添った教育により実務習得を実践しています。

□ハラスメント防止研修

2022 年 9 月 22 日、管理職を対象に「職場でのハラスメント防止に向けて」のオンライン研修を開催しました。ハラスメント行為に対しどのように関わるか、管理職としての責任と役割について学びました。

今後も、ハラスメントの無いより良い職場づくりを目指していきます。

□取得資格

特定の資格取得・受講に対して、社員の申請に基づき一定の補助を行っています。下記はその一例です。

内容
運行管理者・通関士・国内旅行業務取扱管理者・衛生管理者（第一種）・安全管理者・
防火管理者（甲種）・危険物取扱者（乙種第４類）・はい作業主任者・積卸し作業指揮者・
床上操作式クレーン運転・自動車整備士・物流経営士（物流大学校）・物流技術管理士

TOEIC 社内テスト

□TOEIC 受験

社内で語学能力の向上とグローバルな人材育成のため、TOEIC の受験を推進しています。

会社の取組みとして、定期的にテストを社内で実施しています。

今後も社員がスキルアップできるよう、支援していきます。

■各種制度

社員が仕事と生活を両立できる働きやすい職場づくりに努めています。
「育児休業制度」や「介護休業制度」など、小さな子供や介護の必要な家族がいる社員を対象に、様々な制度を定め推進しています。新型コロナウイルス感染拡大による緊急宣言の際には、積極的に在宅勤務や時差出勤を活用して対応しました。今後も多様な働き方を実現できるよう、制度の充実に取組んでいきます。

区分	制度	内容
育児	育児休業	最大子供が 2 歳まで休業できる
	所定外労働の免除・勤務時間の短縮	子供が小学校就学前まで短縮できる
	時間外労働・深夜業の制限	子供が小学校就学前まで制限できる
介護	介護休業	原則として通算 93 日まで休業できる
	勤務時間の短縮	3 年間に 2 回まで短縮できる
両立支援	在宅勤務	自宅を就業場所として働くことができる
	時差出勤	通勤・退勤時刻を前後にずらすことができる
	各種休暇	介護・子供の看護休暇が取れる

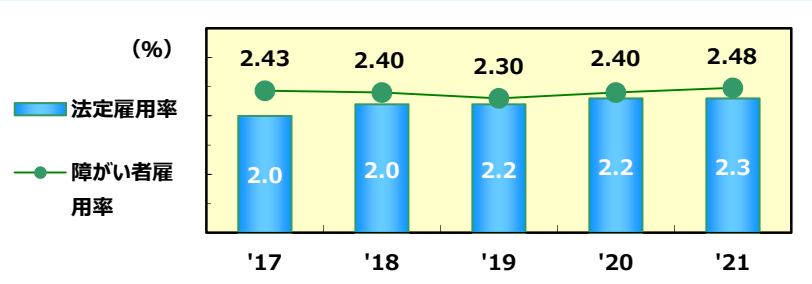
□育児休業を取得しやすい職場づくり
社員が性別を問わず、育児休業を取得しやすい環境にするため、ポスターを展開し制度を周知しています。
対象者には、育児休業取得の意向確認書を使用して確認を行っています。

□ハラスメント相談窓口
当社で働く全ての社員が働きやすい環境をつくるため、ハラスメントのない職場づくりを進めています。
職場におけるハラスメント全般について、相談窓口を設置し対応しています。

■障がい者雇用の推進

当社では、積極的に障がい者の採用活動を行い、雇用率の向上に取組んでいます。
今後も引き続き、各特別支援学校への訪問、ハローワーク主催の面接会への参加等、障がい者の採用活動を積極的に展開していきます。各職場の理解を深めるため、障がいについてまとめた冊子の配付などを行っています。

障がい者雇用率の推移（※1）



冊子の配付

※1 データは 2021 年度現在。2022 年度は集計中

■健康管理の充実

毎年全社員を対象とした定期健康診断を実施しています。診断結果に基づく２次検診受診のフォローを行い、健康起因による事故の防止と、社員の心と体の健康管理に努めています。

□睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施（※1）

睡眠時無呼吸症候群の影響による事故防止対策として、簡易検査装置であるスクリーニング検査機器を自社購入し、定期的に全乗務員に検査を実施しています。

（５）業務改善提案の促進目標

①目標と結果

■業務改善提案の促進目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
業務改善提案件数	4,688 件	5,005 件	4,792 件

②目標達成に向けた取組み

職場環境の安全性や物流効率の向上、環境負荷低減等を目的とした業務改善提案を、全社員が提出できるようにシステムで管理しています。提出件数は四半期ごとに集計し、各部署への働きかけを行っています。

■提案グランプリ賞

提案者個人の提案評価点を累計した通算点数に応じ、提案グランプリ賞を授与しています。

項目	ダイヤモンド賞	金　賞	銀　賞	銅　賞	合　計
2022 年度受賞者数	9 名	19 名	35 名	50 名	113 名
受賞者数累計	43 名	132 名	274 名	627 名	1,076 名

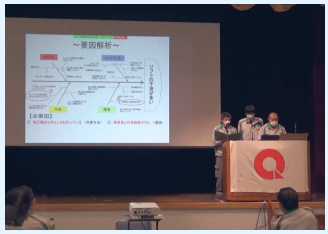
■ＱＣサークル活動の推進

活力ある職場づくりに向けて、ＱＣサークル活動の活性化を推進しています。
小集団で職場の問題解決に半年間取組み、業務の最適化・効率化を図りました。
2022 年 12 月 10 日に第 10 回ＱＣサークル大会が開催され、代表の７チームによる発表の結果、豊田西物流センターが優勝しました。

表彰	部署
優勝	豊田西物流センター
２位	カリツー九州
３位	西尾東物流センター

優勝　豊田西物流センター

QC サークル大会



※1　睡眠中に無呼吸が断続的に繰り返される病気。その結果、日中に眠くなる、集中力や活力に欠けるなどの状態が生じる